

社会資本総合整備計画「南武線駅アクセス向上等整備事業」の概要

南武線駅アクセス向上等整備事業では、社会資本整備総合交付金を活用し、地域課題の改善に向けたまちづくりを推進しています。(計画期間：平成24年度～平成28年度)

■ 整備計画の目標

JR南武線については、渋滞や踏切部の解消・環境改善等に向け、武蔵小杉駅から武蔵溝ノ口駅間の連続立体交差事業の事業実施に向けた関係機関との協議・調査等を進めている。こうした中、武蔵溝ノ口駅以北の片側改札口の5駅（稲田堤駅、中野島駅、宿河原駅、久地駅、津田山駅）については、片側改札口となっていることから、駅へのアクセス向上が求められている。

このため、関係機関との協議等を踏まえ、鉄道による地域分断の改善や安全性・利便性の向上など駅へのアクセス向上に向けた取組を推進する。

■ 課題

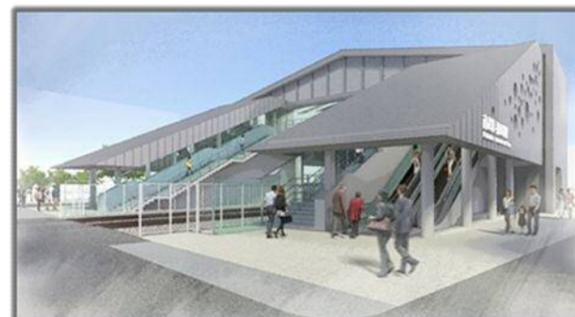
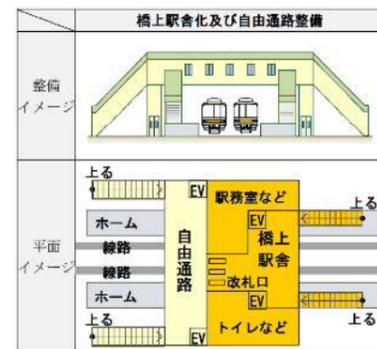
- ① 線路片側にしか改札口がなく、通勤通学時には改札口に乗降客が集中し、道路にまで溢れる。
- ② 改札口の反対側からの駅アクセスは踏切横断が必要であり、踏切遮断時間が長く不便である。
- ③ 踏切遮断時に多くの歩行者が滞留し、自動車との接近等の危険性がある。また、踏切を通路として横断している児童にとって危険性が高い。



橋上駅舎化の効果等が特に高い稲田堤駅と駅構内のバリアフリー化を早期実現する津田山駅に着手

■ 整備方針

- ① 自由通路と橋上駅舎の整備により、踏切を渡らずに線路の両側から駅の改札口にアクセス可能となる。
- ② 自由通路の整備により、踏切を渡らずに自由通路を通して、線路反対側の地域に行くことが可能となる。
- ③ 駅前利用者の動線等を踏まえ、人の待ち合わせ等が可能なスペースなど駅前空間を整備する。



■ これまでの取組状況

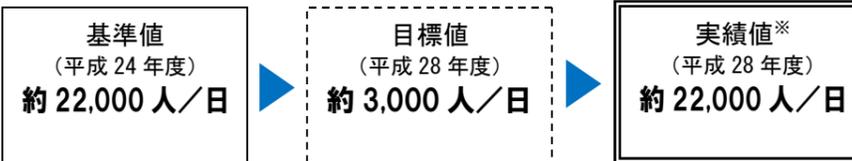
- ✚ JR東日本との基本覚書を締結（平成24年12月）、順次設計業務に着手
- ✚ 地域住民への事業説明会の開催（平成26年3月）
- ✚ 地域住民への駅舎色彩デザイン投票の実施（平成26年5月）
- ✚ 事業用地の取得（稲田堤駅：1件/2件 津田山駅：完了）
- ✚ 自由通路及び橋上駅舎に関する設計業務を完了（平成27年3月）
- ✚ 工事着手（津田山駅：平成29年1月予定）

■ 計画の成果目標

定義：稲田堤駅、津田山駅の改札口に隣接する踏切の踏切歩行者を削減する。

概要：鉄道による地域分断の改善や安全性・利便性の向上度合いを踏切歩行者の削減人数で評価する。

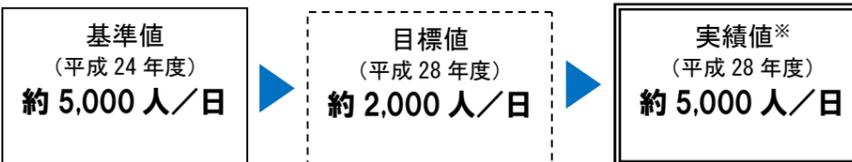
＜稲田堤駅＞



評価：未達成

事業用地取得に難航し、事業が完成していないため、事業効果が発現しない。

＜津田山駅＞



評価：未達成

構造変更等の工事費削減に向けた取組などにより工事着手が遅れ、事業が完成していないため、事業効果が発現しない。

※評価未達成のため、実績値は平成24年度に設定した基準値とした。

■ 総合的な所見

設定した評価指標は、橋上駅舎の整備によって、踏切歩行者が踏切を渡らずに駅へアクセスすることが可能となり、事業効果が発現されるものであるため、橋上駅舎未整備の状態では指標を達成することはできない。

■ 今後の方針

地域分断の解消による児童等の安全性の確保、駅舎のバリアフリー化、駅へのアクセス性の向上が喫緊の課題となっており、引き続き、用地の取得、工事の推進を図り、事業効果の早期発現を目指す。

また、国土交通省では、平成28年6月に踏切の交通量、事故発生状況等の客観的データに基づき、緊急に対策の検討が必要な踏切を抽出・公表しており、今後は踏切の安全対策が求められることになるが、橋上駅舎は踏切歩行者の削減に寄与する。